

# 徳島農業大学の卒論

～ 農大は、野菜、花、果樹、家畜\*、そして、人を育てます。～

注：家畜\*…蜂は家畜に含まれます。一箱、二箱と箱単位で数えます。

最終学年となる2年次生は、一人ひとり卒論を完成させなければなりません。こう聞くと、どの大学、専門学校などでも同じようなことをしていると思います。それでは、徳島農大の卒論はどのような特徴があるのでしょうか。

## 1 プロジェクト研究とは

2年次の1月に後期末試験があり、その後、2年次生は、授業も実習もなくなり、約1ヶ月を卒論の執筆に専念します。この卒論を書くために、1年間をかけて実施してきたのが、プロジェクト研究というものです。そのプロジェクト研究について、お話しします。



1つ1つ調査し記録します。



栽培管理は自分の責任です。

1年次6月から始まる「卒論演習」という講義で、1年次生は、卒論とはどのようなものかを知ります。そして、学生は、卒論のために、どんなプロジェクト研究をしようかと考えながら、1年間、授業を受け、実習に取り組むこととなります。

## 2 プロジェクト計画発表会

1年次の2月にプロジェクト計画発表会があります。1年次生一人ひとりが、自分のプロジェクト計画について発表します。研究テーマは、卒論にふさわしい研究でなければならぬため、担当教員と相談を重ねながら決定します。発表会では、プレゼンテーションソフトを使い、全教員と全学生の前で発表します。発表内容は審査され、承認されなければ、再検討しなければなりません。

## 3 プロジェクト研究をいよいよ開始

発表会が終わると、いよいよプロジェクト研究開始です。必要な圃場、設備、道具などが、自分の研究のために割り当ててもらえます。土日でも水やりが必要なら、登校します。自分がしなければ、枯れてしまいます。人工授粉や摘心、収穫など、時期を逸してはいけない作業も、自分がその時期を確認してやります。夏休みでも必要ならば登校します。担当教員からさまざまな指導や助言をもらいますが、プロジェクト研究の責任者は、学生自身です。



卒論締切迫る。

最初の計画どおりにいかず失敗することはもちろんありますが、栽培の管理はしっかりしていて、結果が予想からはずれたものなら、その失敗はよき研究として、卒論になります。栽培管理を怠って失敗したなら、卒論は書けません。

## 4 2回のプロジェクト発表会

2年次12月に、プロジェクト中間発表会があります。そして、翌2月に、プロジェクト結果発表会があります。この最後の発表には、全教員と全学生、さらに、保護者等の前で発表します。



発表は緊張の連続!

普段から、学生は、自分のプロジェクトに責任と誇りを持っています。プロジェクトの話になると、表情は生き生きとし、言葉には熱がこもります。

## 5 卒論完成、そして卒業

学生は、プロジェクト研究をやりあげ、卒論を書き終えて、卒業するときには、ひとまわりも、ふたまわりも、大きな人間になって、農大を巣立っていきます。



卒業式は、最高の笑顔で!

農大は、野菜、花、果樹、家畜、そして、人を育てています。